北区の部屋だより

2025年5月　第189号

刊行物登録番号　6-2-165

編集発行：北区立中央図書館「北区の部屋」〒114-0033　北区十条台1-2-5　℡03-5993-1125　令和7年5月発行

北区こぼれ話 第189回

赤羽の戦車試運転場に敷かれたキャタピラと日本刀

赤羽自然観察公園の土地には、戦前、陸軍兵器補給廠がありました。兵器の調達・保管・修理・供給などを実施する兵站（後方支援）の拠点でした。戦後、アメリカ軍は、ここを TOD（Tokyo Ordnance Depot=東京兵器補給廠）第 2 地区として使用しました。第 2 地区には、戦車の修理工場や、燃料や塗料の地下格納庫であるケミカルデポがあり、戦車を貨車に積むためのランプ（貨物用プラットホーム）がありました。そして、現在、自然観察公園になっている楕円形の広く平坦な土地は、戦車の試運転場として用いられたのでした。ただし、この土地には問題がありました。それは湧き水です。現在でも赤羽自然観察公園の湧き水は「東京の名湧水 57 選」の一つとなっています。つまり試運転場にもかかわらず、土地がぬかるんでいたのです。この試運転場については、米軍が撮影した写真が残されています。昭和 30 年（1955）の撮影で、アメリカの国立公文書館が保存していました。

これらの写真を板橋区教育委員会文化財係が調査・複写し、その画像データを「北区の部屋」にご提供いただきました。この試運転場の写真では、たくさんのキャタピラが地面に敷き詰められていることが確認できます。そしてトラックが走行しています。軟弱な土地であっても、キャタピラを敷くことにより、トラックが走行できるように改善されたのでした。

〔写真〕赤羽の戦車試運転場
米国国立公文書館所蔵　板橋区教育委員会調査

この土地に敷かれたのは、キャタピラだけではありませんでした。赤羽 RTO（Railway Transportation Office=米軍輸送事務所）に派遣されていた国鉄職員だった方は次のように回想しています。「この土地の凹地に戦利品となった日本の戦車、装甲車などを埋め立て、さらに占領軍命令で豊太閤なみに全国の庶民から刀狩りをして集めた刀剣や猟銃も火焔放射器で焼却して埋め、戦車の試走場としていた」（松本守博『米軍輸送と朝鮮戦争』）。占領軍は、日本陸海軍の武装解除をしただけではなく、民間にあった日本刀などの武器も接収しました。それらの一部は焼却され、試走場に埋められたのです。刀身は燃えなくても、鞘や柄は燃えたのでしょう。米兵が大量の日本刀を一本ずつ選別したとは考えにくく、おそらく十把ひとからげで処分していったものと思われます。これら赤羽の TOD に集められた日本刀は、赤羽刀と呼ばれています。残された赤羽刀は、その後、東京国立博物館に保管され、さらに歴史的価値が高いものについては、全国の博物館に無償譲渡されていきました。

【地域資料アドバイザー　黒川　徳男】

北区の部屋

今月の展示

「ヘリコプターから見た北区」

■**展示期間**　4 月 25 日(金)～5 月 28 日(水)

■**展示場所**　「北区の部屋」企画展示コーナー

令和６年（2024）12 月７日、自衛隊十条駐屯地にてヘリコプター体験搭乗が催されました。十条駐屯地上空ではドローンの飛行が禁止されているため、その周辺の街並みを空から見る貴重な機会となりました。ヘリコプターは、十条から北とぴあ、田端操車場、スカイツリーや新宿副都心など東京２３区の主要な地点を周回し、十条に帰ってきました。天気も良好で、冬の空気は澄み渡り、空からの撮影には絶好の機会でした。今回の展示では、この体験搭乗で撮影した写真を展示いたします。

中央図書館刊行物・新刊本のご案内　令和７年４月刊行

「北区の歴史はじめの一歩　赤羽西地区編　改訂版」

執筆　黒川　徳男・保垣　孝幸／編集・発行　北区立中央図書館

書誌番号：B13463520

「北区の歴史はじめの一歩」は私たちの住む北区をもっとよく知ってもらうために、北区を７地区に分けて作成した地域学習の入門書です。それぞれの地区の特徴をわかりやすい解説と目で見て理解しやすい多くの図版で紹介しています。毎年学校を通して、区立小学校３年生児童全員に該当する地区編をお配りしています。

また、区内全図書館で閲覧・貸出ができ、下記場所で販売もしていますので、ぜひご覧ください。

販売場所：中央・滝野川・赤羽図書館、飛鳥山博物館、区政資料室（区役所第一庁舎１階）及び、区内一部書店　＊詳しくはお問合せください。

販売価格：400 円

2025　大河ドラマ「べらぼう」の世界の本

2025　大河ドラマ「べらぼう」は蔦屋重三郎のお話です。時代は 18 世紀半ばの江戸、天下泰平の世と言われていたころのお話。吉原大門前に書店を開き、書籍の編集・出版業を手掛けたのが蔦屋重三郎その人でした。

「喜多川歌麿」や「葛飾北斎」、「東洲斎写楽」などの浮世絵師の名作も世に送りました。

地域資料の本の中にも、浮世絵や今の時代のかつて吉原があった場所に関する本が置いてあります。

華やかだったころの江戸時代に思いをはせてみてはいかがですか？

『浮世絵と古地図でめぐる江戸名所散歩』　大石　学/著　ＪＴＢパブリッシング　書誌番号：B10999376

『図説浮世絵に見る江戸吉原』　佐藤　要人/【ほか】著　河出書房新社　書誌番号：B10608150

『見てきたようによくわかる蔦屋重三郎と江戸の風俗』

日本史深堀り講座/著　青春出版社　書誌番号：B13441661

『名所物語　浮世絵にみる北区の江戸時代』北区飛鳥山博物館/著　北区教育委員会　書誌番号：B13123998